

# 永井豪におけるキリスト教異端というステレオタイプ ——黄泉の河を渡り古典グノーシスのイメージをまさぐる——

椋山女学園大学 鎌田大資

## 1、「目明しポリ吉」[1967]『馬子っこきん太』[1968-1969]から『デビルマンサーガ』[2015-]にいたる道

人間社会を滅ぼす悪魔の跳梁と、神との戦いというイメージの裏側には、『魔王ダンテ』[1971]における宇宙人としての神に侵略され、氷漬けになって身を隠した最強の悪魔戦士という「原イメージ」が最初から存在する：地球を侵略する全能に近い宇宙人「神」はグノーシスの悪の権化としての造物主を示す。

## 2、キリスト教における異端と正統

信仰を純化させるためには異端が必要（アウグスティヌス）→ローマ帝国の国教としてのキリスト教の変容・「叛逆天使としての悪魔」の系譜・異端の系譜　ゾロアスター教の二元論→エジプト神話を取り入れたユダヤ思想としてのグノーシス：「悪の権化としての創造神」イメージ→人工宗教としてのマニ教の二元論→カタリ派へ 異端審問の開始→勢いあまったの魔女狩り：テンプル騎士団員の処刑と財産没収などは、ナチのユダヤ人狩りでおこなわれた財産横領行為の原型と見なそうる。・正統と異端：キリスト教が民衆教化、統治の一翼を担い、司牧権力化するにつれて整備される三位一体説などの正統教義を理解し飲みこむのは意外に難しい。

## 3、『デビルマン』[1972-1973] 異端描写の正統性

『ガクエン退屈男』[1970]『ハレンチ学園』[1968-1972]『あばしり一家』[1969-1973]など、学校を舞台にした無法状態を描きつづけ、ギャグ描写が『アラークン』[1968-1969]『キッカイクン』[1969-1970]『あにまるケダマン』[1972]『オモライくん』[1972]などで人間離れた境地へと進展しつつあった段階で開始された本格 SF ストーリーマンガとして、すでに悪魔の人間界への浮上により描きだされるべき「この世の地獄」はすでに自家菜籠中の物となっていた。

## 4、デビルマンの変奏

悪魔仮面によるデビルマン（アモン）の不動明への憑依、「ススムちゃん大ショック」[1971]をリメイクしたジンメンのエピソード、美しき悪魔シレーヌとの壮絶な戦いをへて、悪魔とかかわりのありそうな者を襲う疑心暗鬼に陥った人間社会の自警団活動が生み出す「地獄」を描き、飛鳥了が変身した天使が率いる軍団と、デビルマン不動明が率いる悪魔軍のハルマゲドンを暗示して、悪魔としての不動明の敗北が描かれる本編エピソードにおいて、人間社会、悪魔、天使（神）の全領域が死と暴力に覆われた「地獄墮ち」の様相を呈する。地獄が全面展開して作品が終了し（テレビ版の終了とともに連載も短期で終結）、永井の創作活動は荒涼とした関東地獄地震後の東京を描く『バイオレンス・ジャック』[1974-1974, 1977-1978, 1983-1990]に移行する。

リメイク版『魔王ダンテ』[2002-2004]においては、ダンテが人間界の妹を取りこんだ両性具有の姿で描かれ、『デビルマンレディー』[1997-2000]結末部では、女性だったアスカ蘭が突如男性化してデビルマンレディー（不動ジュン）と性交し、懐胎された子どもが不動明としてわずかな日時で生みおとされる。転生するキリストのモチーフに両性具有化した「マリア」イメージも投影されて、新種のグノーシス神話として受けとってしまいたいようなイメージに変奏されている。